

**甲府市 ひきこもり支援の
意見交換会開催**

甲府市が4月から中核市に移行します。それに伴い新に「甲府市健康支援センター」が設置される。それに伴い、ひきこもり支援を考える意見交換会が開かれた。市としての体制が強化されるこれからの動きに期待したい。親子の高齢化が進み支援が行き届かない悲惨な状況が増える事が予測される。危機感を持った対応を期待したい。

家族の役割について

家族会にとってまず大事な事は「繋がり」である。みんな同じ思いで何とか現状を打破したいと思っている。しかし魔法をかけたように現実是不変である。会に「回復」という魔法はない。親同士で苦しい胸の内を話す打ちに、自分と向き合い、自分に気付く機会なる。そして子供との関係を振り返ってみる。同じ立場で考え悩み、試行錯誤する場所である。親は専門家ではないので、状況を大きく転換していく時は、専門家、支援者の力が必要となる。私達はほんの少し背中を押すだけである。最終的に回復へ近付けていくのは親自身である。親は子供にとってのたった一人の存在なのだ。魔法があるとしたら、参加する親から貰うエネルギーだろうか。

農園でギャザリングしよう

- ◆市民農園・1区画 55㎡(約17坪)1年間 6,000円
場所:甲府市七沢町
友達、家族などで一緒に畑で過ごしませんか!
◆お問い合わせ=055-243-0261(相良農園)

すみれ会

- ◇月例会 3月9日(土)13:30~15:30
同じ悩みを持つ親同士、話をしましょう。
場所:南アルプス市市民活動センター
◇お問い合わせ=090-5416-8748(清水)



桃の会今後の予定 2019年(H31)

4月は場所未定の為、HP 山梨日日新聞生活面などでお知らせします。
当事者スペースは4月から再開予定です。



お問い合わせ
TEL/FAX
0266-55-5411
090-6190-8677
桃の会事務局

桃の会では会の運営についてお手伝いをしていただけの方を募っております。ボランティアでの活動となりますが、ご協力をいただける方お待ちしております。

会報を必要とされなくなった方はご面倒でもお知らせ下さい。

山梨県 桃の会

HP : <http://momonokai.org/> E-mail : meri-sannokuni@softbank.ne.jp

会報第54号

**自立とは
「自分自身を語る言葉をもつ」こと**

それは、自分を知っていること。

自分と向き合っていること。

自分と受け入れていること。

自・他を信じていること。

「信じる力」は「生きる力」



出会う、つながる、わかちあう

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 山梨支部

【3 月月例会】 ひきこもり 地域からのスタート！！

〈日時〉 3月17日(日)13:30~16:30

〈場所〉 山梨県福祉プラザ 4F

〈参加費〉 一家族 1,000 円 (当事者は無料)

〈内容〉

富士川町にひきこもり支援窓口が設置されて5ヶ月余り経過する。富士川町がNPO 法人ステップ増穂に支援事業として委託し実現したものである。町をあげて支援に取り組もうとしたきっかけは何だったのか。

地域に根差した地域だから出来る支援、そこからひきこもりの本質的な問題が浮かび上がってくるのではないかと思う。

民間の家族会として、町の決断はとても素晴らしく、感謝の思いで一杯である。

トップダウンではなくボトムアップ、下から掘り起こして問題を表面化させていく、声をあげられない人、もう諦めている人、存在すら見えない人たちに目が向けられてこそ本当の支援と言えるのではないか。富士川町の取り組みが山梨県域に広がって更に社会の動きに繋がってほしい!

その願いを込めて、お二人にお話を伺います。
多くの方々のご参加をお待ちしております。



お詫び

《当事者スペース》 3月はお休みいたします。

当事者スペースの世話人休養のため今月もお休みします。初めて参加したい方は桃の会代表篠原までご連絡をお願いします。

E-mail : meri-sannokuni@softbank.ne.jp

【3 月のミニグループトーク】

〈日時〉 3月24日(日) 10:00~12:00

山梨県福祉プラザ 4F

月例会とは違った集い、心おきなく話しましょう。

※参加費は 500 円です。(当事者は無料)

ピア Voice

長い間の忍耐でした！

①

5ヶ月前、「ずっと働きたいと思っていました。明日、ハローワークに行く」と、35歳の息子が正座をして頭を下げて言いました。突然の事で驚きました。

ひきこもってから約5年8ヶ月の事でした。

それからは、心の中の大きな重い砂袋のようなものに小さな穴があいて少しずつ軽くなっていくような感じがしています。動きだすための休養として必要な時間だと思えるようになりました。

(H)

諦めない！

②

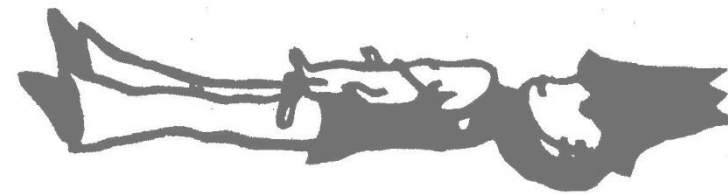
息子は31年間生きる中で、強く社会から排除され、現実の厚い壁にはばまれ「この社会で生きていくことはもう無理なのか」方向性の全く見えなくなる悔しい思いを何度も経験した。

息子は「もう支援はいらない！」と言って他県へ出ていった。

親としては、人間が作り上げていく行政医療などの支援が、あとから続く人達にとって、助けになるものになってほしい。少しでも進化し息子や自分のように悔しい思いをする人がなくなって欲しいという思いである。だから、私は諦めない。社会や一人一人の人間が変化していくことを諦めたくない。

親が諦めてしまったら誰が子供のことを本当に考えるだろうか？誰でもなれる親、しかし本当の親になるには忍耐と覚悟がいるのだ。人と人のつながりがいつか人間としての回復につながっていくとそう信じたい。

(sino)



ボクには
ボクにしかできないことが
必ずある
と信じています